



令和5年度 リサーチウィークス

幼稚園と大学の連携による 学びの機会の創出

幼稚園型認定こども園

東京家政大学附属みどりヶ丘幼稚園



はじめに

附属みどりヶ丘幼稚園では、学園内のさまざまな部署や学科と連携して保育を展開することがあります。

保育を専門とする児童学科や保育科だけではなく、他学科の学生も幼児期の子どもたちの生活を見たり、実際に触れ合ったりする貴重な機会となっています。

今回は、園児、学生が交流を通して、互いに学びを深めている様子をご紹介します。



令和5年度授業等協力

	授業・活動名	学科	概要
1	自校附属園実習	児童学科児童学専攻1年生	前期後期1日ずつ実習に入り、子どもの実態や保育者の援助を学ぶ。
2	幼児と環境	児童学科3年生（127名）	草花遊びの環境を作り、実際に子どもたちがどのように遊ぶかを触れ合いながら学ぶ。
3	保育学概論	栄養学科（70名） 短期大学 栄養科（10名） 服飾美術（29名）	中・高の家庭科免許取得に必要な保育学の中で幼児の遊びや発達を知るための保育観察。
4	こども環境デザイン	造形表現学科	「家政の杜ワンダーランド計画」～道草のできる環境～をテーマに子どものかかわる空間作り。
5	育ちのための表現B・D・F	造形表現学科	2年生：施設・保育見学 3・4年生：造形表現ワークショップ
6	宮地先生ゼミ	教育福祉学科	手作り味噌作り

令和5年度授業等協力

	授業・活動名	学科等	概要
7	図書館ライブラリーメイツ	さまざまな学科	絵本の読み聞かせ
8	食リンピック	栄養学科をはじめとするさまざまな学科	ヒューリップ主催の食育に関する企画 幼稚園児親子らを対象
9	附属女子高等学校「保育」	高校3年生 92名	園舎および保育の見学
10	卒業研究フィールドワーク	児童学科 7名	定期的に保育観察
11	研究調査協力	児童学科 3件 保育科1件	卒業研究や授業におけるアンケート調査やインタビュー調査など

上記一覧から、今回は、2. 4. 5. 6の実践をご紹介します。

草花遊び ～「幼児と環境」の授業から～



↑ 幼稚園の園庭で学生自ら環境構成をして実践。

もうすぐ植替える予定のビオラを使い、子どもたちが遊べる環境を学生が考えて用意します。

実際に子どもとかかわりながら、遊ぶ様子を観察します。



草花遊び

～「幼児と環境」の授業から～



子どもたちが遊ぶ様子を目の前で観察しながら、年齢による発達の違いや遊びの中でどのような学びがあるのかを読み取ります。

年少児はまだ道具の扱いにも慣れておらず、学生も手を貸します。 →



←年長児は道具も器用に使いこなし、花びらから出てくる色の予想をしながら色水づくり



草花遊び

～「幼児と環境」の授業から～

学生にとってこの経験によって、どのような学びを得られたのか、学生レポートや担当教員の報告から一部抜粋してお伝えします。

[学生レポートより]

1つの遊びの中で、様々な力(探求心、発想力、挑戦するなど)が育まれているのだと感じました。

[学生レポートより]

簡単に伝えてしまうのではなく、考えることを楽しめるような環境構成や言葉がけを考え、自分自身で動き、考え、深めることを楽しめる活動内容にしたいと感じた。

[担当教員より]

子どもの姿から感じたことを分かち合ってみること、撮った写真を基に考察してみることを通して、「一つの遊びの中に一人ひとりの遊びの楽しみ方や工夫があること」「子ども独自の見方や世界観、知識に驚きを得たこと」が、各グループのドキュメンテーションに記述されている。

こども環境デザイン

『家政の杜ワンダーランド計画』～道草のできる環境～

幼児と環境をテーマとし、幼児の特性を理解し、五感を澄ます等のキーワードを基に環境を学生がデザインします。制作された遊具等にかかわる子どもの姿を観察して学びます。



本来は、森の中の設置を計画していましたが、熱中症予防のため、急遽園内（屋内）に設置しました。



育ちのための表現 D (土粘土)

午後の保育の時間、学生が幼稚園の保育室に環境を構成し、子どもと一緒に遊びながら、子どもの様子を観察します。



育ちのための表現 D (木工)

実践を振り返り、次回の活動を計画。(年間計3回) 子どもたちは、さまざまな造形活動を体験することができました。



木片をはじめとするさまざまな素材を自由に使って作る体験は子どもの想像力を刺激します。



育ちのための表現 F (土粘土)

造形表現学科の教室におうかがいして、土粘土でダイナミックに遊びました。遊びの導入から片付けまでの子どもの姿を予想して学生が計画しました。(年中組・年長組全園児)



全身を使って粘土をのばします。これほどの量の粘土と触れ合うことはなかなかできない体験。



教育福祉学科



味噌作り (宮地先生ゼミ)



宮地先生のゼミの取り組みとして味噌作りを年長組が体験させていただきました。
学生との活動とその前後の保育の中での子どもたちの体験をご紹介します。

味噌はどうやってできるの？

学生が、味噌作りの事前導入としてパネルシアターを使って分かりやすく工程を説明してくれました。子どもたちも真剣に聞いています。



大豆に実際に触れてみよう！

味噌作りをする前に、大豆に実際に触れたり、匂いをかいだりしてみました。
水に浸した後の豆にも触ってみて、その変化を感じました。



お姉さんと一緒に味噌を作ろう！

味噌作り当日は、学生も各グループに入り、子どもたちに作り方を伝えながら一緒に体験。



ゆでた大豆をつぶします。つぶした後は、お団子状に丸めてバケツやビニールの中に詰めていきます。

できあがった味噌の試食

半年間、時々熟成具合も観察しながら、12月ようやく味噌が出来上がりました。



できた味噌をまずはそのままキュウリにつけて試食しました。



後日調理の先生方のお力も借りて、味噌汁作りに挑戦しました。



出来立てのお味噌汁、美味しそう！思わず笑みがこぼれます。

お姉さんと一緒に味噌汁を味わう

「味噌の作り方を教えてくれたお姉さんをご招待しよう」と子どもたちからリクエストがあり、試食の時間に来園いただきました。



お姉さんたちにも手作り味噌を食べてみた感想をうかがいました。

学生にとっての学び

子どもを専門的に学ぶ児童学科や保育科だけではなく、さまざまな学科の学生も実際の保育現場を訪れ、実際の子どもの生活を見たり、触れ合ったりすることを通して、
子どもを知る・子どもの環境を知る・保育という営みを知る
機会になっている。

子ども
を知る

子どもの
過ごす環境
を知る

保育を知る
(意図や援助
環境の重要性)

子どもにとっての学び

- ・ 日常の保育ではなかなか体験できないような五感を使ったダイナミックな経験ができる。
- ・ 学生との出会いは印象深く、学生と一緒に体験したこと、聞いた話をよく覚えており、その後の遊びや生活に取り入れて展開したり、興味関心が広がり、発展することもある。

五感を
使う

ダイナミック
な経験

その後の遊び
や生活への
つながり

コラボレーションのその後



味噌作りの その後

節分の豆まきで煎り豆を見た年長は、「大豆のずーちゃんだ」と思い出し、「煎るってどういうこと？」と味噌作りの折に見て触れた大豆と関連付け、さらに興味関心を広げて調べることに。



木工体験の その後

木片で車作りを経験したことをきっかけに、その後いただいた素材でマリオカート作りへ発展。マリオに変身して、車を走らせて楽しむ遊びに。



楽器調査の その後

学生の卒業研究の調査で紹介されたボンゴやコンガ。その後パーカッションへの興味が広がり、後日、「世界の楽器」と称したコーナーを担当が環境構成。子どもたちは遊びの中で自分で演奏したり、その後発表会の劇にも用いたりすることに。



おわりに

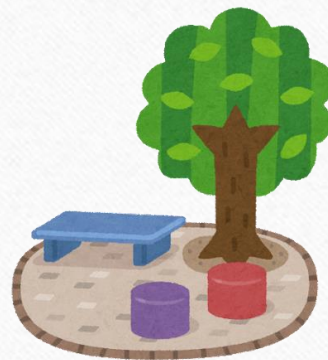
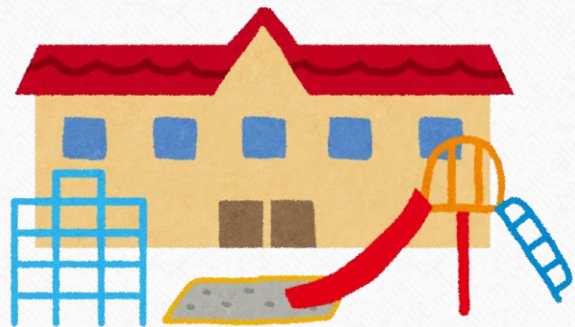
東京家政大学には、さまざまな分野の学科があり、学生がすぐ傍で専門分野を学んでいるという恵まれた環境でみどりヶ丘の子どもたちは過ごしています。

これからも様々な学科や部署との連携の方法を見出し、学生にとっても幼児にとっても多様な学びを得られる機会を創出してまいりたいと思います。

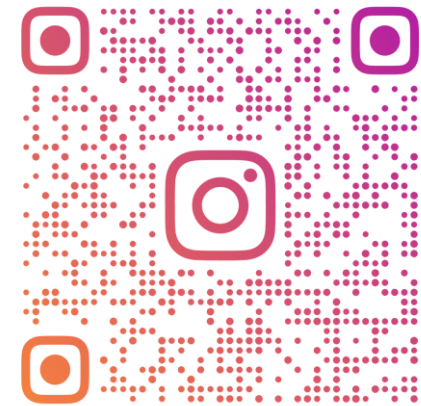


公式Instagramはこちら

Instagramにて、
みどりヶ丘幼稚園の日常の一コマを
紹介しております。
こちらもぜひご覧ください！



フォローお待ちしております！



TKU_MIDORIGAOKA_OFFICIAL